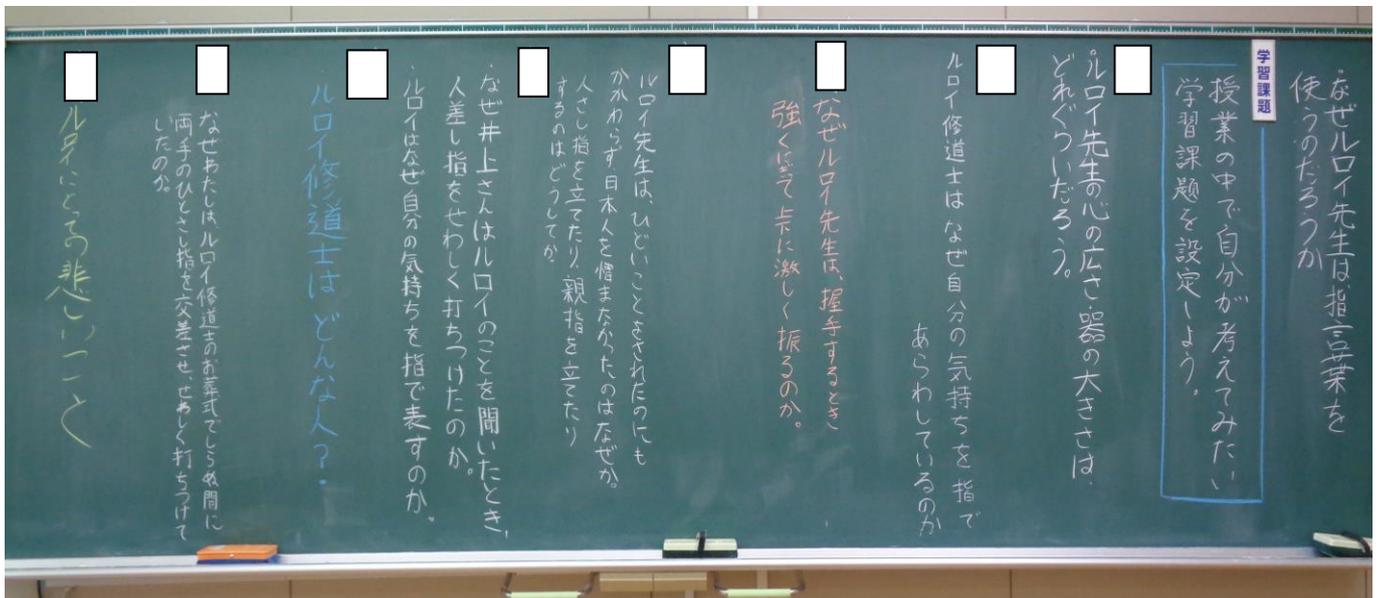


- 1 テーマ
自律的な学びができる生徒を育成するための、教師の「支え方」
～ 生徒の疑問や気づきから作る単元構想 ～
- 2 テーマ設定の理由
こちらから一方的に与える学習課題では、国語が嫌いな生徒、苦手意識をもつ生徒はさらに国語の授業はつまらないと感じてしまうだろう。
新しい単元（題材・教材）に入るときに初発の感想を書かせ、その感想の中の疑問や気づきを基に生徒自身が学習課題を設定し、それを解決していけば、国語の授業を他人事ではなく、自分事として捉えていくのではないかと考えた。
- 3 実践内容（3年生 小説教材「握手」）
 - ① 8 cm×5 cmの短冊感想用紙を2枚ずつ分け、印象に残ったこと（ところ）、もしくは疑問に思ったこと（ところ）の観点で初発の感想を書かせる。
 - ② 回収し、教師が感想一覧をプリントとして作り、次時に配る。
 - ③ 感想を共有し、感想一覧を基に、自分が授業の中で考えてみたい学習課題を設定させる。
 - ④ 自分が設定した学習課題を、黒板に板書させ。誰がどんな学習課題に取り組もうとしているか確認させる。（これはちょっと...と思えるものには、教師が助言し、うまく誘導し、変えることもある）
 - ⑤ 1時間配当で各自まとめさせる。（ノートに自筆でまとめるか、それともスライドにまとめるかを選択させる）
 - ⑥ 個人学習課題の発表会（ノートにまとめたものはコピーをとり、配る）
 - ⑦ 他に考えさせたい学習課題は、「晴久からの課題」や「おまけの課題」といった名称で提示し、取り組ませる。



- 4 課題と成果
 - 生徒がどのような学習課題を設定するかわからない。
 - 単元構想が後付けとなる（生徒の課題が出揃ってから作ることになる）。
 - 各々のまとめを、学級内でどのように共有するか。
 - 「初めに級友がどのような感想をもったのかを知れるのはよい」という生徒の声。
 - 自分で決めた学習課題のため、受け身ではない。

1 テーマ 自ら取り組む生徒の育成

2 テーマ設定の理由

教師は直接的に知識や技術の伝達をする指導から、子供が自律的に学びに参加し、他者と積極的に関わりながら、学びを深めていくことを仲介していく指導が求められると考える。

体育の授業は、できるできないがはっきりと分かってしまう。技能面において、苦手意識を持つ生徒は意欲関心をもてなくなるだろう。

授業をする上で、仲間と価値のある関わり方（見合い・教え合い・励まし合いの活動）や ICT 活動を多く設け、「一人じゃできないことも皆となら楽しいと思える」というような技能面以外の多様な楽しみや喜びを味わうことができれば、自律的に学びに参加し、他者と積極的に関わりながら、学びを深めていくのではないかと考えた

3 実践内容 1・2年マット運動

- ①自分の映像とお手本の映像が比較できるよう、クラスルームにお手本の映像を張り付け、いつでも見れるようにした。
- ②自分の映像をすぐに見返すことができるよう、遅延カメラを設置。
- ③授業中に見つけた気づきや友達から教えてもらった気づきをジャムボードに記入し、「授業の始めに振り返る・授業中にいつでも記入、見返し」ができるようにした。

マットで気づいたこと・（先生・友達に）教えてもらったことを記入しよう

自分での気づき：黄色

先生友達から教えてもらったこと：水色

<p>例 開脚前転の時の手は、体の近くにつくと力強く押せる。</p> <p>□</p>	<p>逆立ちするときは、体を真っ直ぐにすることを意識するといいわかった。</p> <p>□</p>	<p>飛前転をする時は思いきり上に飛んでから前に重心を倒してやると遠くに飛ぶことが出来ることわかった。</p> <p>□</p>	<p>例 倒立するときは、手の甲を見ると倒立しやすいよと西尾先生に教えてもらった</p> <p>□</p>	<p>倒立をするときは足を振り上げてすぐそらずに下を見て手を伸ばして耐える。</p> <p>□</p>	<p>後転 回るとき、足の上下におしりがきたら手で押すときれいに回れると内山先生に教えてもらった。</p> <p>□</p>
<p>開脚の練習をしたほうがいいと言われた</p> <p>□</p>	<p>開脚のときは手を自分のところに置く</p> <p>□</p>	<p>三点倒立はゆっくりやると安定した。</p> <p>□</p>	<p>「□さんに」とび前転は高く飛んで丸く回るといいと教えていただいた。</p> <p>□</p>	<p>前転をするとき、最初の手を体の少し遠くにつくといいと教えてもらった</p> <p>□</p>	<p>伸脚後転のときはなるべく足を手の近くにつくと良いというのを栗結先生に教えていただいた。</p> <p>□</p>
<p>開脚前転は、足の間から覗く様にやると上手くできる。</p> <p>□</p>	<p>倒立する時は、手をつく前は勢いがあって、手をついてからは勢いを殺すと、顔外と上で静止できることわかった。</p> <p>□</p>	<p>飛び前転するときは前に飛ぶ意識よりむしろ上に飛ぶ意識をした。</p> <p>□</p>	<p>倒立するときは、真下を見るんじゃなくて少し奥を見ると良いby校長先生</p> <p>□</p>	<p>跳び前転をするときは、前に跳ぶのではなく、上に跳ぶことを意識するとい</p> <p>□</p>	<p>開脚前転の足を開くのがはやい。</p> <p>□</p>

(ジャムボード)

投稿日: 6月19日



小5 体育_伸膝前転
YouTube 動画・1分



小5 体育_伸膝後転
YouTube 動画・1分



小5 体育_倒立前転
YouTube 動画・1分



小5 体育_(発展) ロンダ...
YouTube 動画・1分



小3 体育_側方倒立回転
YouTube 動画・1分



小学校体育マット運動の...
YouTube 動画・2分



小6 体育_(発展) 前方倒...
YouTube 動画・1分



小学校体育マット運動の...
YouTube 動画・2分



体育進学センター大阪校...
YouTube 動画・0分

(クラスルームに Youtube のリンク貼り付け)



(遅延カメラ)

3 成果と課題

○遅延カメラを設置したことで、動画を撮影してもらう手間、タブレットを開いて見るという動作がなくなり活動時間が増えた。また、簡単に自分の動作の確認ができ、その映像を使って教師が助言した後すぐに、活動に移ることができるのも良かった。(反復練習しやすい)

●Wi-Fi 環境があまり整っていない。

●今回のジャムボード活用では、ict を使うことが目的となってしまっており、生徒に上手く活用させることができなかった。何のために使うのか、目的意識をしっかりと持ち使っていきたい。